

## カリキュラム

機構施設名：大分支部大分職業能力開発促進センター  
実施機関名：合同会社瓦林総合研究室

(A) バックオフィス	IT新技術による業務改善
新技術活用	

コースのねらい	第4次産業革命下における新技術を含めたITを活用し、作業の自動化や共有能力の拡充等により新たな業務の合理化・迅速化が図られていることを理解し、自社業務に適切な新技術を選定する知識を習得する。
---------	---

	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間 (H)
1	■ 新技術の概要	(1)なぜ今DXなのか 今まさに第4次産業革命の真っただ中にあり、デジタル技術の活用度合が企業の発展を大きく左右すること、そしてそれを支えるための新しいデジタル技術の進展と、デジタル活用はどの企業にも求められていることを2025年の壁や日本のデジタル競争力が他国より遅れをとっていることなどの話をまじえながら解説する。 【演習】 人には現状を維持しようとする傾向があり、それが改善の妨げになることを演習を通じて体験頂く。	0.2
		(2)AIを活用した生産性向上 生成AIを活用したオフィス業務の生産性の向上策を中心に、事業課題の解決にAIツールを活用された事例も交えて解説する。	0.5
		(3)クラウド概要 クラウドと旧来のシステムの違いや、プライベートクラウド、パブリッククラウド、IaaS、PaaS、SaaSなどの分類、利用上の注意点を説明し、SaaSを中心に活用パターンを整理して説明する。	0.5
		(4)IoTの概要 IoTの概念とビッグデータ、AIとの関連などの概要について解説する。	0.5
		(5)ビッグデータの活用 ビッグデータの概念を説明し、ビッグデータを分析する基本手順(データ分析の目的の明確化→データ収集→整理→分析→活用)を活用できる情報源やツールを交えて解説する。	0.5
		(6)RPAの機能の概要 無料でも高機能で使いやすく、生産性の向上に寄与した実績のあるRPAを紹介した上で、RPA活用の勘所を解説する。 【演習】 自社のDXの推進状況を整理頂き、グループで共有し、他社の動向や課題を知る。	0.5
2	■ 新技術の導入事例	(1)業務改善とIT技術の活用 業務改善の流れを外観し、IT技術の適用の考え方を説明する。 ①業務改善手順の概要 ②現状認識 ③課題抽出と優先度付け ④業務プロセスの再設計 ⑤新技術の課題への適用 上記に加えて、業務改善にあたって必要なコミュニケーション技法について紹介する。 【演習】 自社の課題を抽出、改善策の検討を行っていただく。	1.8
		(2)各種新技術を活用した事例の紹介 下記の各種新技術を活用し業務改善に結びつけた事例をツールを交えて紹介し、受講生の所属する各企業での適用の可能性を理解頂く。 ①AIを活用した事例紹介 ②クラウドを活用した事例紹介 ③IoTを活用した事例の紹介 ④RPAを活用した事例の紹介 【演習】 自社の課題に対し、活用が考えられるITツールについて検討、グループ内でシェア頂く。	1.5
合計時間			6.0

カリキュラム作成のポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ITの新技術を活用して、業務効率化を推進した実際の事例をポイントを交えて紹介し、身近に感じて頂きます。</li> <li>・自社の課題からITツールの活用までの流れを習得頂き、職場で新技術を活用し業務改善を推進するノウハウを学べます。</li> <li>・自社の要員だけでIT新技術の活用を推進することが困難な場合の対処法を紹介し、実際に業務改善を推進するための方策を解説します。</li> </ul>

訓練に使用する機器等	
●機器・ソフトウェア(受講者用) ・受講者様には筆記用具のご持参をお願いします。	●機器・ソフトウェア(講師用・その他) ・PC(講師用)・OS:Windows11 アプリ MicrosoftOffice2024
●使用するテキスト オリジナルテキスト	●その他 ・講師用のPC・通信環境は講師が用意致します。 ・自社の課題を整理するワークの時間をとります。

利用事業主に用意をを求める機器等	備考
・プロジェクター、ホワイトボード、マーカー プロジェクタとパソコンを接続するHDMIケーブル をお願いします。	